

分野別市民意見交換会の報告

現在、文教産業委員会が取り組んでいる政策課題について、関係する様々な団体の皆様と意見交換会を開催しており、今後、皆様からの意見を市政への政策提言に反映させていきたいと考えています。

そこで今回は、今まで実施してきました意見交換会の内容をご紹介します。

る原料米の供給体制を
図り、計画的に生産拡
大を図っている。
また、観光振興策で
は、古都の風情が残る
観光資源を活かすため
の人力車の活用や、伝
統歴史文化体験型イン
ストラクター育成など、
観光振興による雇用創
出などを実施している。



人吉市役所にて雇用創出について説明を受ける

【11月19日】
あじかファミリー会・
あじか農産物出荷組合
・組合員は約300人で
ほとんどが65歳以上
・ 専業農家として、ま
た高齢者の生きがいづ
くりとして、市内各地
から出荷がある
・ 商品の品質は、均一
となるよう厳しく指導
している
・ 集客のポイントは品
揃え。冬期の農産物が
減る時期には、県外か
ら農産物の仕入れを
している
・ 魅力ある直売所を作
ればお客は集まる
・ 女性グループによる
商品づくりにも取り組



伝統工芸品について意見交換
(飛騨高山まちの博物館にて)

【11月21日】
伝統的工芸品の意見交
換（※現地調査）
【飛騨春慶連合協同組合】
・ 組合員35名で、高齢
化により良いものが出
来なくなるのが心配
・ 市の技術習得者補助
金は、金額の拡充も検
討し継続してほしい
・ 「木地」のサワラや
ヒノキなど材料の入手
が困難になっており、
需要が少ない中での丸
太購入は価格的に難し
い

んでいる。また、6次
産業化を進める上では、
加工業者の協力が必要
・ 大型バスに対応する
駐車場の確保と山裾の
農地での鳥獣害対策が
課題

【11月28日】
高山商工会議所
・ 若者雇用を含め、中
心市街地の活性化と、
まちづくり会社の活用

【飛騨一位一乃彫協同組合】
・ 原材料のイチイは、
共同購入しているが、
原材料確保のため北海
道・青森・長野などで
調査
・ 国有林でのイチイ人
工林は、使用できるま
でにまだ50年かかる
・ 後継者育成のため
は、自治体の全面パッ
クアップが必要
・ 販売関係では、土産
店にも置いていない状
態で、展示する場所も
なく苦慮しているが、
町屋美術館的な整備が
できないか

い
・ 「塗り」は、国産漆
が主体だが希少で高値
・ 「引き物（ろくろ）
」は、栃の木が主体だ
が、ほとんどない状態
・ 後継者を2名（10年
間）育てたが、生活で
きず別の勤めを持ちな
がら活動

【11月29日】
高山市農業委員会
・ 儲かっている農家に
は後継者はいる
・ 6次産業や地産地消

【11月28日】
高山市観光連絡協議会
・ 観光振興組織の連携
が始まり、誘客戦略組
織として期待
・ 観光振興は、地域が
大事にして育てる思い
を醸成することも大切
・ 高山地域と支所地域
の観光資源を融合し、
周遊・滞在型観光を
・ 地域イベントが市全
体の観光に寄与すると
いう認識で
・ 今後、各観光協会が
連携した取り組みも必
要

・ 若者の起業家を支援
する制度を構築
・ 個人ブランドでなく、
誰もが共有できる高山
ブランドの確立
・ 森林資源を活用した
雇用創出
・ 地産地消を含めた地
域資源の有効活用
・ 建設投資も雇用維持
のため、常が必要

【12月17日】
JAひだ青年部
・ 地域の農地や用水路
の管理など、高齢者が
多く10年後が心配
・ 若い後継者づくりは、
農業に対しての魅力が
あればできる
・ 旅館やホテルなどに
地元野菜を使ってもら
いたい、個人では品
目が少なく、取りまと
めなどのコーディネー
ターが必要
・ 新規就農者への支援
はあるが、1人でも夫
婦での就農でも同額の
支援金はおかしい

には、農商工連携によ
る産業間のコラボレ
ーションが必要
・ 生産者は売ることが
苦手で、販売に力を入
れると、生産管理がで
きず、なかなか踏み込
めない
・ 市民にも地元農産物
を買ってもらえるPR
を

・ 産地としての品目を
増やし、直売所の支援
強化